

## V 学校研究

### 1 研究主題

# どの子も伸びる、わかる・できる授業づくりを目指して ～教師が変わる・生徒を変える～

### 2 主題設定の理由

昨年度は、「授業改善（教師が変わる）」と「授業規律の確立（生徒を変える）」の二本柱で学校研究を進めてきた。校内研修会を充実させるために、研究授業を年4回（社会、国語、英語、道徳）行い、外部から講師を招聘してご指導いただいた。本校生徒には、全体として学習に向き合おうとする雰囲気が出てきているが、学力の定着が弱いという現状があり、なかなか改善することができなかった。そこで、今年度も授業改善と授業規律の確立を二本柱にして、学習集団としての基盤づくり、授業の基礎基本の習得、「根っ中授業スタイル」の確立を目指したいと考える。その際、新学習指導要領の移行期間に入ることを考え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を意識していく必要がある。今一度、自分たちの授業を見直し、学習課題の設定の工夫や有効な学び合いの工夫、まとめの仕方、授業規律の徹底等に重点を置いて授業改善を進めていく必要がある。そこで、これらの課題を意識しながら「根っ中授業スタイル」を継続し、生徒が主体的に学び、わかる喜び、できる喜びを実感できるような授業を組み立てていくことを目指し、研究テーマを設定した。校内研修を通して全ての教科領域で研究を進め、具体的方策を協議しながら実践を重ねることで、生徒に「確かな学力」をつけさせたい。

### 3 研究の内容

#### (1) 授業改善【教師が変わる】

##### ① 学習集団としての基盤づくり

学ぶ厳しさと楽しさを実感し、同じ目標に向かって切磋琢磨していく部活動のような学習集団を形成していく。

##### ② 授業の基礎・基本の習得

研究授業や公開授業、校内研修会等を通して、発問や指示の仕方、話し方や表情、生徒の思考が深まったり広がったりする問い返しの方法などを学び、実践を重ねることで、すべての教師が授業の基礎・基本を身につける。

##### ③ 「根っ中授業スタイル」の確立

各教科部会で以下の点について実践することを協議し、共通理解して授業改善を進める。また、校内研修会を通して、他教科と交流し、意見交換をすることで、さらなる授業改善につなげる。

#### 《授業改善の視点》

##### 1 <導入> 学習課題の明確化

- (1) 学習課題の提示の工夫
  - ・学習意欲をもたせる「しかけ」や学習課題の表現を工夫する。
- (2) 学習計画の提示の工夫
  - ・単元や本時の学習の見通しをもたせる工夫をする。

##### 2 <展開> 学び合いの有効化

- (1) 生徒が自分の考えを持つための工夫
  - ・考える視点を明確に示し、個人思考の時間を保障する。
- (2) 生徒が考えを深めるための展開の工夫
  - ・活動の目的に応じて有効な学習形態（ペア・グループ・一斉）を活用する。
  - ・思考を深める問い返しや思考をゆさぶるしかけを工夫する。

##### 3 <まとめ> 学びの自覚化

- (1) ねらいの達成
  - ・学びの実感のある授業となるよう、学習課題と整合性がある「まとめ」や振り返りとする。
- (2) まとめ充実
  - ・教科の特性を生かしたまとめ方を工夫する。

## (2)授業規律の確立【生徒を変える】

### ①学ぶ意欲の向上

生徒が学びの主体は自分たちであることを意識して、意欲的に学習に取り組み、互いを高め合えるような学習集団づくりを目指す。

### ②授業規律の確立

「あたりまえ十カ条」の一・二・三条の内容を徹底させることで生徒の学ぶ姿勢を作る。

- ・ベルスタ<sup>2</sup>：チャイムとともに授業を始める。
- ・学ぶ姿勢：忘れ物をせず、正しい姿勢で積極的に授業に参加する。
- ・聞く態度：相手の目を見て、集中して静かに話を聞く。

### ③家庭学習の習慣化

生徒の実態を踏まえ、何をどう頑張るのかを伝えることで、家庭学習の定着を図る。

## 4 研究の方法

(1) 校内研修会・学年研修会・教科研修会など、校内における研修会の質的充実を図る。

①目標と取り組みの内容を明確にし、授業実践を通して検証・改善を行う。

②各研究会・部会の取り組みの内容を交流し、研究の成果や課題を共有する。

③よい授業を参観し、授業の基礎基本を学ぶ。

④全員が授業を公開し、授業改善を図る。

・年間5回の研究授業を行う。

・要請訪問、県教員総合研修センターのサポート事業を活用し、指導助言を得る。

⑤外部講師を招聘し、授業改善や学習の基盤づくりについての指導助言を得る。

⑥授業をVTRに録画し、客観的に見ることで授業改善に生かす。

(2) 国、県学力調査や、生徒アンケートの結果から実態を把握・分析し、取り組みに生かす。

(3) 小学校との協力体制づくりをすすめる、課題を共有し、連携して課題解決にあたる。

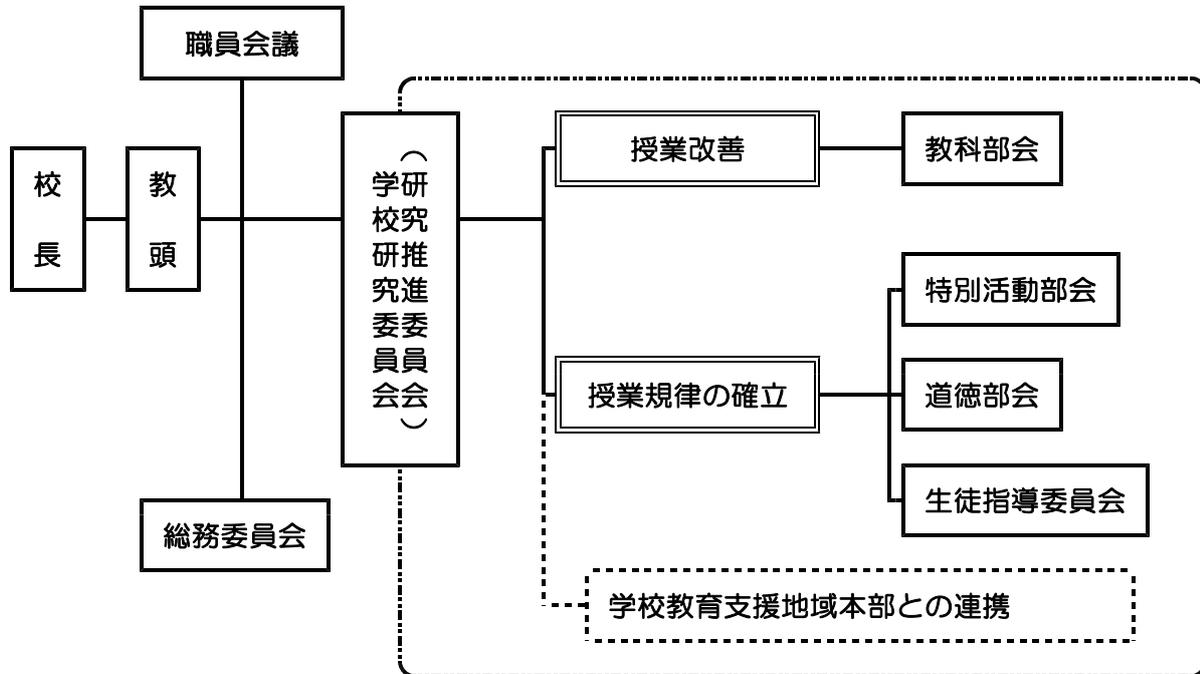
①小中で連携して学習規律の確立に努める。

②NHF小中合同研修会や授業参観等を通して、相互の授業改善を図る。

(4) 生徒の学力向上のために、地域の人材を活用し、学習指導や生徒指導に生かしていく。

(5) 「いしかわ道徳教育推進事業」道徳教育推進校（1年間の指定）

## 5 研究の組織



・全教職員による校内研修会を月1回程度開催する。

・学校研究の推進，連絡・調整，および指導・助言に関することは研究推進委員会において行う。

＜校訓＞ 進んで学ぶ 明るく素直 強い身体

「どの子も伸びる、わかる・できる授業づくりを目指して」  
 ～教師が変わる・生徒を変える～

**めざす生徒像**

学びの主体が自分たちであることを意識して、意欲的に学習に取り組み、互いを高め合える生徒と集団



**根っ中授業スタイル**

いしかわ学びの指針12か条+ 第2・3・6・8・10・11条



**方策1 授業改善**

**根っ中授業スタイルの確立**

- ＜導入＞・課題の提示の工夫  
 ・学習計画の提示の工夫
- ＜展開＞・生徒が自分の考えを持つための工夫  
 ・生徒が考えを深めるための工夫
- ＜まとめ＞・ねらいの達成  
 ・まとめの充実

**方策2 授業規律の確立**

**学びの基盤づくり**

- ・特別活動、道徳の時間の活用
- ・「あたりまえ十カ条」1～3条  
 ベルスタ<sup>2</sup>の徹底  
 学ぶ姿勢  
 聞く態度
- ・家庭学習の習慣化

**9年間を見通した学習指導の徹底**

- (1) 小中で連携して学習規律の確立に努める。
- (2) NHF小中合同研修会や授業参観等を通して、相互の授業改善を図る。



**学力向上のための方策**

**校内研修の質的充実**

- ・授業参観から基礎基本の習得
- ・外部講師からの指導、助言
- ・授業録画による自己分析

**家庭学習の充実**

- ・家庭学習の習慣化
- ・家庭学習の内容の充実

**地域の人材を活用した学習**

- ・若手塾、根っ中塾の開催
- ・地域、保護者との連携

**研究の仮説**

- (1) 明確な課題の提示や、生徒が主体的に学ぶことを目指した学び合い、教科の特性を生かしたまとめ方の工夫など、**授業の基礎基本を教師がしっかりと習得し、「根っ中授業スタイル」を充実させること。**
- (2) **授業規律の徹底と、家庭学習習慣の確立のための手立てを具体的にとること。**

これらのことを意識して、教師自らが授業改善を継続し、生徒が主体的に学ぶ環境を整える。そして、何をどう頑張ればよいのかを分かりやすく生徒に伝え、行動目標とすることで、定着のための家庭学習が確立され、学力の向上につながると考えられる。